平成３０年２月２８日

平成２９年度　学校評価書

四万十市立中筋中学校
学校長（　下谷　達也　）印

１．学校教育目標

自ら学び、共に歩み、未来を拓く生徒の育成

２．本校の現状

学力面においては、平成２８年度高知県学力定着状況調査で、３年生は、国語-7.7・社会-3.8・数学-5.1・理科-4.0・英語-4.3という結果であり、筋道を立てて文章を書くことや説明・表現することに課題がある。２年生は、国語+3.8・社会-5.9・数学-8.5・理科-11.5・英語+8.0という結果であり、記述式問題の正答率が低い点が課題である。

体力面においては、平成２８年度高知県体力・運動能力調査で、３年生は、長座体前屈平均得点4.75・５０ｍ走4.50・立ち幅跳び2.50・ボール投げ5.00、２年生は、握力5.25・立ち幅跳び4.25・ボール投げ5.00で、２・３年ともに「立ち幅跳び」「ボール投げ」に課題がある。

３．本年度の評価項目

〔１〕学力向上
①学力向上のための組織的な校内研修等の取組　②子どもにわかる授業づくり
③予習・復習の質と量を高める取組　④基礎・基本の徹底
〔２〕生徒指導
①自尊感情が高くお互いを尊重する心の育成　②いじめの根絶　③読書活動の推進
〔３〕学校・家庭・地域の連携・協働
①小中の円滑な接続の推進　②みんなであいさつ運動（市独自）
③開かれた学校づくり推進委員会の開催
〔４〕基本的生活習慣の確立と体力の向上
①生活調べの実施　②体育授業の充実とリーダー育成　③スポーツテスト結果の分析
〔５〕防災・安全教育の推進
①避難訓練等の実施　②高知県安全教育プログラムの活用　③登下校中の事件・事故の未然防止
④安全な施設設備の維持管理・美化

４．自己評価

評価項目 大	評価項目 中	評価指標	取組状況・成果	評定		次年度の方策
（１）学力向上	①学力向上のための組織的な研修等の取組	○学期ごとに研修計画の見直しを行い、年間8回の研究授業の実施 ○毎学期、学習状況調査実施すべての項目を上げる ○全研究授業授業力チェックシート活用　【生徒】『授業がわかる』100%	○学期ごとに計画を見直し、課題に応じた計画の見直しができた。５教科の研究授業５回、全校道徳の研究授業３回、計８回実施できた。全へきで授業を公開し、高い評価を受けた。 ○学習状況調査のすべての項目の値を上げることができなかった。下回った項目に取り組む。 ○授業力チェックシートを活用できた。【生徒】『授業がわかる』の肯定的評価が93.3%であった。授業スタンダードをさらに徹底する必要がある。	3	3	○年間を通して計画的な校内研修を実施する。 ○毎学期、学習状況調査を実施する。全15項目3.7以上 ○授業力チェックシートを活用する。全15項目3.7以上
	②子どもにわかる授業づくり	○UDアンケート25項目中15項目以上肯定的評価100% ○県版学テで、国語(言語事項)正答率60%以上、数学(数と式)正答率50%以上 ○学校アンケート【教職員】『わかりやすい授業』肯定的評価100%	○UDアンケートの肯定的評価100%が【４月】11/25、【７月】18/25、【12月】23/25となり目標を達成することができた。 ○県版学テで、国語(言語事項)正答率１年生83.0%、２年生60%、数学(数と式)正答率１年生61.5%、２年生43.3%となり２年生数学で目標を超えることができなかった。 ○【教職員】『分かりやすい授業に努めている』の肯定的評価が100%であった。【保護者】『先生は分かりやすい授業に努めている』の肯定的評価も100%であり、目標を達成ことができた。授業改善の成果と考えられる。	3		○UDに基づく授業づくりに引き続き取り組む。 ○授業スタンダードに基づいて授業改善を行う。 ○四万十市指定事業「一校一役」に取り組む。
	③予習・復習の質と量を高める取組	○家庭学習時間達成率80%以上 ○予習・授業・復習のサイクル作成 ○県作成各種シートの宿題での活用率100%	○家庭学習時間達成率が１年生100%・２年生67%・３年生90%・全体89%であった。 ○『宿題以外に予習・復習の家庭学習を行った』肯定的評価73.0%であり、サイクルが確立できたとは言い難い。家庭学習の手引きを見直しサイクル化に取り組む。 ○県作成各種シートの宿題での活用率が100%であった。	3		○生活調べを行い家庭学習時間を把握する。 ○予習・授業・復習のサイクルをつくる取り組みを行う。 ○県作成各種シートの宿題での活用を行う。
	④基礎・基本の徹底	○夏季休業20時間以上・冬季休業10時間以上 ○日進月歩タイム（帯タイム）の活用　県版学テ平均正答率を上回る	○夏季休業の加力補習を全学年20時間、冬季休業全学年15時間実施した。目標を超えることができた。引き続き取り組む必要がある。 ○日進月歩タイムは国語(語彙力の向上)・数学(計算力の向上)で活用した。県版学テ平均正答率を国語は上回ることができた。時間を確実に確保して取り組む。	3		○長期休業中の加力補習を実施する。 ○終学活で10分間、ピアチュータを活用した日進月歩タイム(帯タイム)を実施する。

（2）生徒指導	①自尊感情が高くお互いを尊重する心の育成	○道徳意識調査『自分にはよいところがある』肯定的評価70%以上 ○人権意識調査『友達を大事に』肯定的評価100% ○人権意識調査『友だちから大事に』肯定的評価100%	○『自分にはよいところがある』の肯定的評価が【５月】73.3%、【２月】80.0%であった。目標を超えることができた。全校道徳の取り組みが効果的であった。 ○『友達を大事に』の肯定的評価が【５月】100%、【２月】93.3%であった。 ○『友だちから大事に』の肯定的評価が【５月】100%、【２月】100%であった。目標を達成することができた。	3	3	○道徳の授業改善や全校道徳を実施し、自己有用感を高める。 ○人権集中プランを計画し「１０の人権課題」について取り組む。 ○道徳教育・人権教育の授業を公開する。
	②いじめの根絶	○学期１回巡回相談実施・校内支援委員会開催 ○学校生活アンケート『先生は話を聞いてくれる』肯定的評価100% ○学校アンケート『生徒会活動の充実』肯定的評価100%	○巡回相談は学期に１回、校内支援委員会は月に１回実施できた。個別指導計画を見直し個に応じた支援・指導ができた。 ○『先生は話を聞いてくれる』の肯定的評価が【６月】92.8%、【11月】100%であった。目標を達成することができた。個別・教科別面談の成果と考えられる。 ○『生徒会活動の充実』の肯定的評価が93.3%であった。目標を達成することができなかった。生徒会が主体となる取り組みを多く取り入れる。	3		○校内支援委員会を持ち、巡回相談を実施する。 ○Ｑ－Ｕ、各種アンケートの校内研修を行う。 ○生徒会が主体となる行事や活動を行う。
	③読書活動の推進	○週5回朝読書実施 ○月に１回読書ボランティア招聘 ○『読書がすき』肯定的評価65%以上	○週5回朝読書を実施することができた。 ○月に１回読書ボランティアの読み聞かせを実施した。小学校に読み聞かせに行くことができた。 ○『読書がすき』の肯定的評価が50%であった。図書室活用の授業を実施する。	3		○朝読書や読み聞かせを実施する。 ○図書を活用した授業を行う。 ○多読者表彰の取り組みを行う。
（3）学校・家庭・地域の連携・協働	①小中の円滑な接続の推進	○学校アンケート【教職員】『小・中は連携して活動』肯定的評価100%、【保護者】80%以上 ○学期に１回合同校内研修の実施	○【教職員】『小・中は連携して活動』の肯定的評価が100%、【保護者】100%であった。目標を達成することができた。 ○合同校内研修を学期に３回実施することができた。全国へき地教育研究大会に向けて連携して取り組めた。	4	4	○合同校内研修や授業交流など小学校と連携して取り組む。 ○児童・生徒の交流を行う。
	②みんなであいさつ運動	○月に１回生徒会によるあいさつ運動の実施 ○学校アンケート【保護者】『挨拶・返事ができている』肯定的評価100%	○月に１回生徒会によるあいさつ運動を実施できた。小中合同で実施できた。学校独自ののぼり旗を作成した。 ○【保護者】『挨拶・返事ができている』の肯定的評価が100%であった。目標を達成することができた。	4		○生徒会によるあいさつ運動を実施する。 ○部活動でも礼儀やマナーの一環としてあいさつの指導を行う。
	③開かれた学校づくり推進委員会の開催	○年間５回開催 ○学校アンケート【地域】『協力して解決できている』肯定的評価90%以上	○年間５回開催することができた。活動・協議内容を工夫する必要がある。 ○【地域】『協力して解決できている』の肯定的評価が100%であった。目標を達成することができた。全国へき地教育研究大会に向けて連携して取り組めた。	4		○家庭・地域に積極的に情報を発信する。 ○「中筋子どもと共に育つ会」（開かれた学校づくり推進委員会）と連携・協働する。 ○学校支援地域本部事業を実施する。
（4）基本的生活習慣の確立と体力の向上	①生活調べの実施	○月に１回「生活調べ週間」実施　『朝食を食べる』肯定的評価100%	○月に１回「生活調べ週間」を実施することができた。『朝食を食べる』の肯定的評価が100%であった。年間を通して目標を達成することができた。	4	3	○「生活調べ」を実施して、基本的生活習慣を身につける。 ○家庭と連携して取り組む。
	②体育授業の充実とリーダー育成	○体育アンケートにおいて『体育は楽しい』肯定評価90%以上 ○体育的行事に関するアンケート『充実感を感じる』肯定評価90%以上	○『体育は楽しい』の肯定評価が100%であった。 ○『充実感を感じる』の肯定評価が100%であった。 小中合同運動会では生徒会や３年生が主体的に活動できリーダーとしての自覚ができた。運動の苦手な生徒も個に応じた指導等で楽しく運動に取り組めている。	4		○個々の特性を活かした体育の授業を行う。 ○リーダーを育成して、体育的行事を充実する。 ○リーダー育成の研修に参加する。
	③スポーツテスト結果の分析	○県体力・運動能力調査「立ち幅跳び」「ボール投げ」昨年度の平均得点以上	○「立ち幅跳び」の平均得点が3.80→4.67、「ボール投げ」4.87→4.47であった。「ボール投げ」で目標を達成することができなかった。体育・部活動で再度課題に取り組む必要がある。	2		○スポーツテストの結果を分析し、個に応じた指導を行う。 ○課題のある種目に体育と部活動で取り組む。
（5）防災・安全教育の推進	①避難訓練等の実施	○避難訓練を３回以上実施	○避難訓練を４回実施できた。内容に工夫が見られた。講師を招聘して防災学習・消火訓練を行い内容を充実させた。	4	4	○避難訓練等を実施する。
	②高知県安全教育プログラムの活用	○プログラム活用年間５時間以上	○プログラムを活用して年間５時間防災学習を行った。	3		○高知県安全教育プログラムを活用して、防災教育を行う。
	③登下校中の事件・事故の未然防止	○道徳意識調査【生徒】『交通ルールを守っている』肯定的評価100%	○【生徒】『交通ルールを守っている』の肯定的評価が【５月】93.3%、【２月】100%であった。【保護者】『交通マナーを守っている』の肯定的評価が100%であった。登下校中の事件・事故は0であった。目標を達成することができた。	4		○登下校中の事件・事故を未然に防止する。 ○見守り隊の協力を得る。
	④安全な施設設備の維持管理・美化	○施設設備の定期的な点検・学校内外の美化 ○学校アンケート【保護者】『環境美化の取り組み』肯定的評価80%以上	○月に１回定期的に施設設備の点検を行った。愛校作業以外にも日常的に学校内外の美化を行った。継続的な取り組みが必要である。 ○【保護者】『環境美化の取り組み』の肯定的評価が100%であった。目標を達成することができた。	4		○月に１回以上、施設・設備の安全点検を行う。 ○校舎内外の環境美化を行う。

４段階評価（４　目標を十分に達成、　３　ほぼ目標を達成、　２　やや不十分、　１　改善を要する）

５．学校関係者評価

○評価指標が100%の項目がたくさんあり、その目標を達成できているのが評価できる。
○学校裁量の時間の使い方に工夫が必要である。
○本年度は、全国へき地教育研究大会もあり、小・中学校共に、地域を巻き込んだいい取り組みができていた。
○小学校から中学校への引き継ぎをしっかり行い、小中連携してほしい。
○支援員の配置もあり、学校周辺の美化に取り組めていた。
○学校評価について、年度当初の学校説明が必要である。
○学校関係者評価の関係者の見直しについて